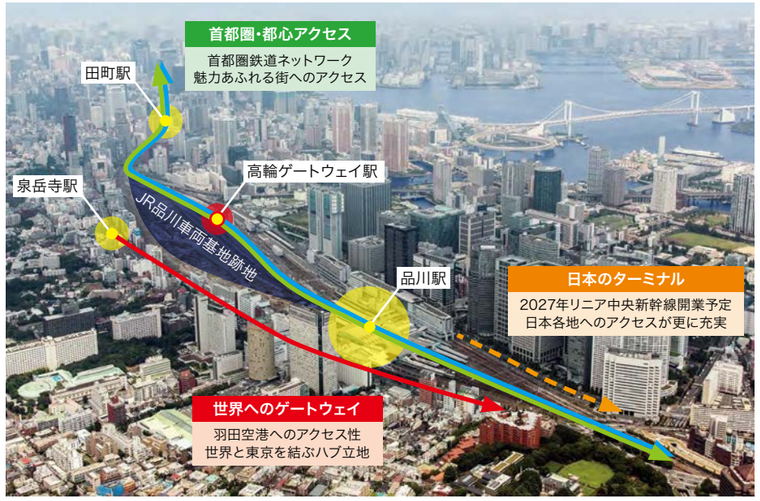
品川開発プロジェクト



品川駅北側コンコースイメージ図

品川駅北側コンコース内イメージ図

概要

2020年3月に高輪ゲートウェイ駅が暫定開業し、さらには品川駅北側の改良及び周辺地域と連携した魅力あるまちづくりを進めています。世界中から先進的な企業と人が集い、多様な交流から新たなビジネスや文化が生まれるような魅力あるまちづくりを推進していきます。

アピールポイント

品川駅では多くのプロジェクトが並行して進んでいるため、専門分野の枠を越えて、数年以上先の工事計画を見据えた検討や調整を行っています。新旧設備の切替工事当日は、終電から始発までの限られた時間で数百人単位の人員が一丸となって作業にあたる非常に大規模な取り組みになります。

羽田空港アクセス線（仮称）

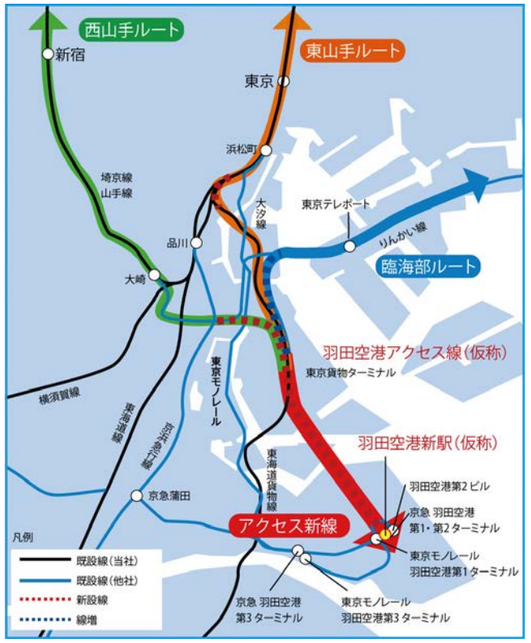
概要

当社の東京圏鉄道ネットワークを有効活用し、多方面からのダイレクトアクセスを実現する「羽田空港アクセス線（仮称）」を推進しています。
本構想のうち、「アクセス新線」（東京貨物ターミナル～羽田空港新駅間）については、鉄道事業法第３条に基づく鉄道事業許可を受けるとともに、「東山手ルート」（田町駅付近～東京貨物ターミナル間）と合わせて環境影響評価手続きに着手しています。この区間の整備により、東京方面（宇都宮線・高崎線・常磐線方面）から羽田空港への時間短縮や乗換解消が実現し、グループ経営ビジョン「変革2027」に掲げた「シームレスな移動」が可能となります。

アピールポイント

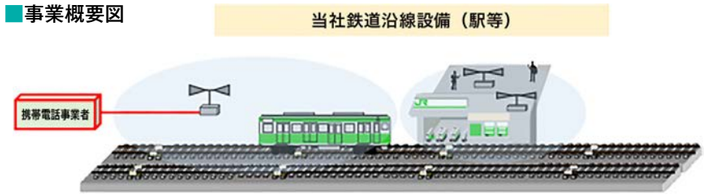
本事業により、羽田空港と国際競争力強化の拠点である都心とのアクセス利便性の向上が図られます。また、輸送ネットワークが強化されることで、羽田空港の機能強化、首都東京の更なる発展、国際競争力の強化、交流の促進ならびに地域の活性化に寄与できるものと考えています。

■事業概要図



5Gサービスの推進

■事業概要図



アピールポイント

５Gサービスを提供するための基盤となる設備をＪＲ東日本が主体的に整備することにより、鉄道沿線の5Gエリア拡大を目指すとともに、鉄道外収入を得るための施策として推進しています。

概要

携帯電話事業者が5G通信設備の整備を進めるにあたり、駅のホーム等、当社鉄道沿線においても電波が届きにくいという問題があります。そこでＪＲ東日本が駅をはじめ鉄道沿線に5G環境の基盤を整備し、携帯電話事業者の共同使用を可能にすることにより、鉄道沿線の5Gエリア化を目指しています。

電柱地震対策

■電柱建替用車両は４両で編成しており、各車両はそれぞれ次のような役割を担います。

車両名称	主な役割
①電柱用高所作業車	バケットを使って電線や電車線金具類の取付け・取外し作業を行います
②装柱作業車	電柱に設備されているトロリ線などを支持している金具を仮受します
③電柱建植車	クレーンを用いてコンクリート製電柱を引き抜き、鋼管柱を建植します
④電柱運搬車	新設する鋼管柱と撤去したコンクリート製電柱を運搬します

概要

東日本大震災や福島県沖地震などの地震被害を教訓とし、大規模な地震に備えた対策を進めています。新幹線高架橋上のコンクリート製電柱の地震対策のスピードアップを図るために製造をしていた電柱建替用車両が2022年度に完成しました。これまで、電柱の地震対策として下部補強と上部補強を進めてきましたが、今後、本車両を活用して新幹線高架橋上のコンクリート製電柱を鋼管柱に建て替える地震対策もあわせて進めていきます。

アピールポイント

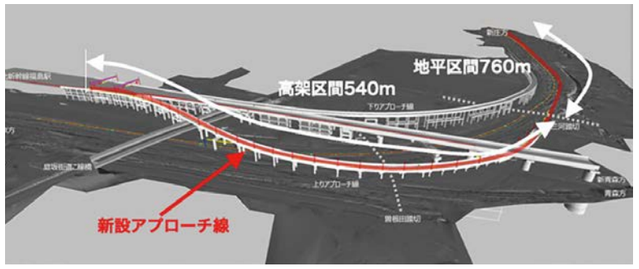
これまで、電柱建て替え工事をする場合、高架下にクレーン車を設置して電柱を建て替えていたため手続きや作業準備に時間を要していましたが、本車両を活用することで、高架下の条件などに関わらず電柱の建て替える工事が可能となり、電柱地震対策のスピードアップにつなげます。今後、さらに電柱建替用車両を3編成増やす予定です。

福島アプローチ線の新設

概要

輸送障害時のダイヤ復旧時間短縮を目的として、福島駅に在来線（奥羽本線）と新幹線上りホームを結ぶアプローチ線を新設します。新設するアプローチ線は高架区間約540m、地上区間約760mとなります。山形方面からの上りつばさ号は、東北新幹線の高架下を通過したのち、新設する高架を登坂し、福島駅11番線に乗り入れる予定です。

■新設アプローチ線



アピールポイント

現行、上りのやまびこ･つばさ号は上下線を共用する区間を通るため2度の平面交差が発生しています。上下アプローチ線を別線とすることにより、平面交差がなくなり、上下つばさ号同時発着が可能となります。電気工事としては、新設するアプローチ線の電柱や架線の新設、東北新幹線に乗り入れるための信号設備改良等を実施しています。